

夢つむぐ島 一島人みんなで織り上げる未来



「生まれる」世代のために▶安心して「出産」できる島の実現

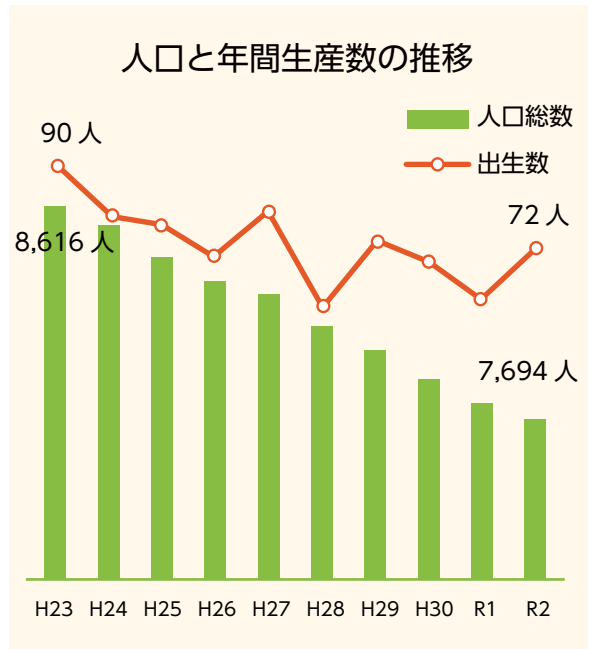
施策1 出産できる島の実現



今回のテーマは、「生まれる」世代のために～出産できる島の実現～についてお伝えします。

現状と課題

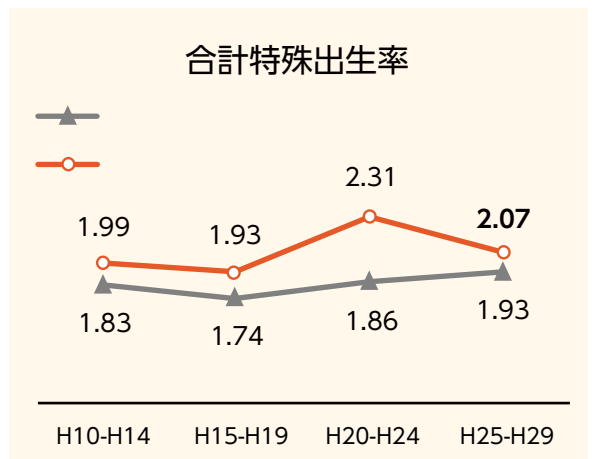
- ◆直近10年間における本町の出生者数は、平成23年の90名が最も多く、令和2年は72名となっています。
- ◆人口減少に伴い、若い年代が減少することで、出生者数や合計特殊出生率が低くなることが想定されています。
- ◆不妊治療は島外の医療機関を複数回受診する必要があるため、経済的・心理的負担が大きくなっています。
- ◆令和3年現在、本島から巡回診療を行う医師により、島内での妊婦健診受診は可能ですが、より精密な検査や突発的な事態には対応できないため、島外の医療機関を受診する必要があります。
- ◆分娩可能な医療機関が島内になく、分娩時期においては、島外での長期滞在となるため、妊婦とその家族への経済的・心理的な負担があります。



資料：住民基本台帳（12月末時点）

施策の展開

- ◆不妊治療や妊婦健診の受診費・渡航費の助成を継続・拡充します。
- ◆島内でも安心して妊娠期を過ごせるよう医療体制の充実を図ります。
- ◆多胎妊娠や若年妊娠等、様々な状況の妊婦が安心して出産を迎えられるように支援を行います。
- ◆町外の医療機関等で出産する際に、安全で安心した出産を迎えられるように渡航費・滞在費等の一部助成（出産助成金）を継続し、妊産婦やその家族の経済的負担の軽減を図ります。



資料：人口動態保健所・市町村別統計

目指そう指標

合計特殊出生率 現状値(平成29年) 2.07% 目標値(令和7年) 2.31%	出生数 基準値(令和元年) 62人 目標値(令和7年) 85人
--	---

後期基本計画の全体版は久米島町ホームページに掲載しています。右のQRコードか、「久米島町 総合計画」で検索し、ぜひご覧ください▶▶▶

